

JR東労組 本部OB会

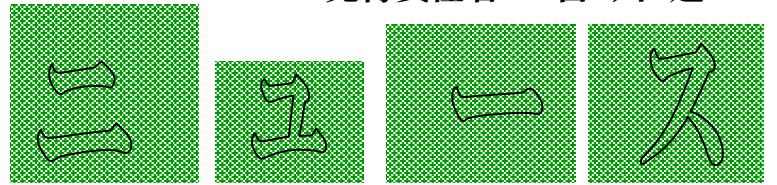
東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三



No.259 2018年9月発行

4ブロックの支部OB会代表者と 今後のOB会活動を議論 本部OB会は助成金増額で支援検討



会議で挨拶する古川会長

本部OB会は8月23日から東関東・西関東・上信越・東北ブロックの4会場で、昨年に続き第2回目の支部OB会代表者会議を開催しました。特に今回は、JR東労組の組合員が大量脱退するという「組織的危機」の中での開催となりました。会議では5年後から始まると予想していた「OB会員の減少・高齢化時代」が早まったことで、「今後のOB会活動のあり方」をめぐって議論が行われました。

この支部OB会代表者会議には、東関東19名(9支部OB会)、西関東23名(11支部OB会)、上信越18名(10支部OB会)、東北27名(20支部OB会)の総勢87名が参加しました。

組織実態調査は厳しい結果に

会議では、約7割の組合員がJR東労組を脱退した以降、初めて本部OB会が実施した「組織実態調査」の結果が報告されました。それによると、OB会活動に重要な支部事務所がなくなったり、お手伝いをしてくれた書記さんが居なくなったりする等、大変厳しい実態が明らかになりました。

また、4会場に分かれて開催された「支部OB会代表者会議」で出された意

見は、本部OB会が提起した「地本・支部OB会の活動を重視する今後のOB会活動の考え方」に賛同するものが多数でした。

またその他の意見として

① 今回の本部の「ゴタゴタ」について聞きたいことがあったので、OB担当の役員の出席があればよかった。(東関東)

② 「スト反対」の地本に「指令違反」と言っていた本部が、いつ方針が変わったのかその経緯を教えてください。(上信越)

③ 「憂う会」に対する今後の本部OB会の対応を聞きたい。(西関東)

④ 「支部OB会助成金の増額」は大変助かる。(全ブロック)

⑤ 事務所がなくなったので役員宅を連絡先にして活動をしている。(上信越)

⑥ 書記さんが居なくなったので、OB会が当番制で事務所を守っている。

など、苦境の中で現職の活動を支援しながら、OB会活動も知恵を出しながら奮闘している報告が沢山ありました。

西日本豪雨へのカンパも

会議の最後には、日本退職者連合

が取り組んでいる「西日本豪雨災害救援カンパ」も行いました。この西日本豪雨災害の被災者の中にはJR総連傘下の組合員やOB会員も含まれております。

まとめでは

今回の会議では、組合員の大量脱退で5年早まった「OB会員の減少・高齢化時代」に対応するOB会活動を行うために

① 脱退したエルダー組合員(=OB会員)に「組合復帰」を呼びかけると共に、自らの健康寿命も延ばしながら組織拡大に努める。

② 地域での活動を活発にするために、支部OB会への助成金を増額する。その他に日本退職者連合の「西日本豪雨災害救援カンパ」に協力態勢をとる等を確認しました。

更にOB会活動のあり方を巡っては、今後もあらゆる機関の場を通じて慎重に検討を行っていきます。

第2回ブロック別支部OB会代表者会議

東関東	日時 2018年8月23日・13時 場所 中央本部小会議室
西関東	日時 2018年8月24日・13時 場所 中央本部小会議室
上信越	日時 2018年8月27日・13時 場所 高崎地本会議室
東北	日時 2018年8月29日・13時 場所 盛岡地本会議室

「懇親会」はOB会活動の源だ!



各地方の定期総会で、新体制が続々と確立される

〈千葉〉

6月30日13時より千葉市民会館で、地本OB会結成20周年記念の「第21回定期総会」が、39名の参加者で開催されました。来賓には地本、本部OB会と千葉県退職者連合が参加しました。この日の第1部は、鶴ノ澤地本書記長の「JR東労組の現状と今後の課題」と題した記念講演で、第2部が「定期総会」でした。第3部は、恒例になっている駅前に場所を移して「懇親会」が開かれ、OB会結成20年の重みを噛み締めながら親交を深めました。

新役員体制

会長 新発田正利
副会長 石井俊郎
事務局長 扇谷健七

〈高崎〉

7月21日15時より、地本会議室で「第21回定期総会」を60名の参加者で開催しました。来賓には地本、本部OB会の他に、貨物労組OB会と組織内議員の2名が参加しました。発言者は2名で、「現役の出来事を正確に教えてほしい」「統一地方選を頑張ろう」の内容でした。地本は20数名の組合員しかいないが、OBの仲間達との結束を固めた総会になりました。終了後は懇親会を開催し、旧交を温め大いに盛り上がりました。

新役員体制

会長 堀口昇
副会長 関谷則之 金子秀一
花田 實 半田国明
原 武久 春原芳雄
事務局長 赤石美弘

〈仙台〉

猛暑が続く7月19日、13時から地本会議室で「第22回定期総会」が57名の参加者で開催されました。第1部の総会では「組合は大量脱退を予測できなかったのか」「今後のOB会活動が心配だ」など、8名の会員から発言がありました。第2部は氏家本部副委員長の講演で、現在本部が作成中の「職場討議資料」の内容の一部が紹介されました。第3部は懇親会で、久しぶりに仲間と酒を酌み交わし、猛暑と日頃の疲れを吹き飛ばしました。

新役員体制

会長 近藤寿一
副会長 荒井武雄 早坂幹生
佐藤孝人
事務局長 林英夫

〈新潟〉

8月31日12時より新潟鉄道信用組合の大会議室で、「第22回定期総会」が64名の参加者で開催されました。来賓には地本、本部OB会その他に、組織内の佐藤県議と新潟県退職者連合が参加しました。総会は昨年亡くなった9名の会員に黙祷を捧げた後始まり、9名の会員から「少数の地本を支える」「新潟のOB会は最後までまともに行こう」などの発言がありました。懇親会は駅前の「よきこい」で開催され、交流を深めながら「少ない現役を支えよう」と盃を重ねました。

新役員体制

会長 山崎次男
副会長 細谷邦彦 沖田晴夫
渡辺文弘
事務局長 高橋信吾

原発避難者支援夏祭り 今年も賑やかに開催

連日の猛暑が続く7月25日、仙台地本・米沢地区OB会主催による「第7回福島原発避難者支援夏祭り」を開催しました。福島支部OB会の紺野会長を始め4名と、本部OB会の奥山副会長、仙台地本の尾形書記長、山形支部の庄司書記長にもお手伝していただき、参加したOB会員7名と共に賑やかに実施することが出来ました。

今年の夏祭りは、恒例になつてきているポップコーンやスーパースポーツ大会が人気でした。中でも何となくもバルーンアートや流し素麺が子供達に大人気で、合間に流したミニトマトには、特に大きな歓声が上がっていました。毎年夏祭りに参加している福島OB会からの感謝の言葉には、会員一同暑さや疲れも忘れ爽やかな気持ちになり、今後毎年継続していくことを改めて決意しました。終了後は場所を移して福島支部OB会と交流し、旨い生ビールで盛り上がり来年の再会を約束して解散しました。(米沢地区OB会 長尾浩)

新潟地本OB会・囲碁大会を盛大に開催



7月6日新潟市秋葉区「天元」に会員33名が集い、地本OB会主催の交流囲碁大会を開催しました。囲碁大会は地本OB会の主要なレク行事として定着し、今年で9回目を数えます。囲碁を愛好する参加者は、和気藹々の中にも真剣に対局を楽しんでいました。特に今年は「半目勝負」「後半の逆転」など星のつぶし合いが続き、順位を決めるのに苦戦するほど、僅差の勝負で大いに盛り上がりました。

終了後は場所を移しての懇親会。アルコールで「静かな勝負」で疲れた脳を癒やし、会話を弾ませ脳の活性化を図り、「次回も健康で対戦しよう」と再開を誓い合いました。次回は、羽越・新潟地域と「上信越地域」に分かれての大会を予定しています。(新潟地本OB会)

退職者連合定期総会

7月12日9時30分より連合会館において、「退職者連合第22回定期総会」が開催され、JR総連OB連絡会からは、北海道労組・貨物労組・東海労・東労組の各OB会から5名の代議員が参加しました。開会后、挨拶に立った人見会長から「西日本豪雨」で犠牲になられた方々に黙祷の提起があり、全員で黙祷を捧げ、総会が始まりました。会長挨拶に続いて、相原連合事務局長、各政党の代表、友誼団体から連帯の挨拶をいただきました。

西日本豪雨被害で 「救援・緊急カンパ」

本部OB会は、日本退職者連合の取り組みの要請を受け、11月20日まで「救援・緊急カンパ」を取り組みますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

運動方針に対し、3名から発言がありました。JR総連OB連絡会からは、東海労OB会の福島さんが、①憲法改正に反対。沖縄の人たちの苦しみは、日本全体の問題。②「袴田事件」について、最高裁で一刻も早い再審・無罪を。③リニア新幹線に3兆円を融資するのであれば、ローカル線を維持すべきと、3点発言し、JR総連OB連絡会としての考えを明らかにしました。総会は、役員の一部交代を含む全ての議案を承認し、会長の団結カンパローで閉会しました。